



今年度から、県内4校（久重小学校・伊尾木小学校・北原小学校・利岡小学校）において、「複式」の授業づくり講座が新たにスタートしましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1セット目は校内研修という形で研修を進めてきました。そして、2セット目の第3回授業づくり講座<教材研究会>から、校外の先生方にも参加頂いて、学び合える場が開けるようになりました。

高知市では、今年度から初めて第2・3学年が複式学級編成となった久重小学校を拠点校とし、全面実施となった学習指導要領の趣旨に沿った授業づくりを、複式学級ではどのように進めていけばよいのかということをご提案頂いています。

10月14日（水）に行われた、第3回「複式（国語科）授業づくり講座<教材研究会>」では、単元と本時の構想についての提案を基に、提案者と参加者が一緒になって考えを出し合い、活発に協議が行われました。



**育てたい「資質・能力」で単元を描く**

単元名 **スピーチマスター ～上級生にもっと知ってもらおう～**  
 教材名 第2学年：「たからものをしょうかいしよう」（東京書籍 2年下）  
 第3学年：「話したいな、わたしの好きな時間」（東京書籍 3年下）

**「言葉による見方・考え方」を働かせて  
 「資質・能力」を育てる**



※青字が本単元で育成したい「資質・能力」

協議の結果、3年生の「言葉による見方・考え方」を働かせる着眼点について、「話の中心」は、具体例ではなく、伝えたいこと（「はじめ」と「終わり」）ではないかという意見が出た。「話の中心」をどのように捉えるのか、教材を見直すきっかけとなった。このことから、もう一度、3年生の本時について見直すことにした。

**授業者の振り返り**

◇ ご参会の先生方のご意見から、毎時間、「言語活動を通す」ことができていなかったことや、「話すこと」と「聞くこと」を常に一体として学習を進めることなど、単元を進めるうえで留意しなければならないことに、改めて気付くことが多くあったので再度検討したい。

◇ 単元や本時で育てたい「資質・能力」については、いつも意識して授業に臨んでいるが、その「資質・能力」を子供たちにどのように身に付けさせるのか、手立てを具体的に考えておくことが必要であると感じた。授業研究会までに、もう一度「言葉による見方・考え方」や具体的な手立てについてさらに考えてから、単元に取り組みたい。

提案者も参加者も、「学習指導要領解説」や「能力ベースの授業づくり（通称：赤本）」を開いて授業づくりのポイントを確認しながら、協議を進めていきました。



**参加者の感想**

- 共通の学習活動で異学年が学び合う中では、低学年（2年生）と中学年（3年生）で育成する「資質・能力」や指導事項の違い・毎時間働かせる「言葉による見方・考え方」（着眼点）の違いを、授業者自身が明確にもって毎時間の授業を進めていくことが重要であると分かった。
- グループ協議を通して、授業者は自身の授業（単元構想など）を異なる視点から見直すことができ、参加者は授業者の授業づくりから学ばせてもらうことができ、両者が得をする講座だと思った。教材研究会と授業研究会とセットで参加したい。
- 授業の中で、デジタル教材やタブレットをどのように生かしていくのか、それぞれの学校で考えていかなければならない課題である。より効果的に活用するための準備が必要だと思っている時に、今回の講座での提案を聞くことができたので、学校から複数で参加させてもらい、よいきっかけとなった。



**今後の予定**

- 【第4回 複式（国語科）授業づくり講座】
- 11月17日（火）13:45～【授業研究会】
- ☆ 今回教材研究した単元について、授業を通して提案し、複式学級における系統を踏まえた授業づくりのポイントに迫ります。

高知市の本年度の「複式の授業づくり講座」は、  
**次回11月17日（火）（4回目）が最終回！**  
 高知の「学び場」へ集まれ！